季刊 うかたま ukatama 発刊にこめた思い

農文協「うかたま」編集部

日々の暮らしを支える食と精神の喪失

食の乱れが国を滅ぼすと叫ばれて久しい。子どもが朝食抜きで登校する原因に、親が寝ていて準備をしない家庭があるからだと聞いた。夕飯はコンビニ弁当を食器に盛って済ます。給食時に「いただきます」と子どもたちが斉唱することに、「給食費を払っているのだから、へりくだった言い方をさせないでほしい」とクレームをつける親まで現れたという。何と嘆かわしい国になってしまったことだろうか。マクロビオティック、スローフード、スローライフ、ロハス、……食と暮らしをめぐる華やかな流行はあっても、「いただきます」という言葉に宿る、日々の暮らしを支える古きよき精神は失われてしまった。食べ物と食べ物を生み出す命の営みの広く深い世界への感謝の気持ちの欠落……これが現代日本の混乱の原因ではないか。

うかたま発刊のねらいと四つの編集方針

農文協は二〇年前に、失われつつある地域に根ざした食生活をなんとしても残しておきたいと考え、全国五千人のおばあちゃんに聞き書きをした「日本の食生活全集」を企画し発行した。企画趣旨に多くの方の賛同をいただき、全部で二〇〇万部を越えるベストセラーとなった。現在でも食の基本文献として世代を超えて購入され活用いただいている。しかし……、実際の食卓ではそうした食の技や知恵が失われるばかりで、本の中でしか見られないような状況が現れている。とくに都会ではそうだ。

このまま手をこまねいているわけにはゆかない。

もう一度「食べる」という生きる基本から始めて、日本を変えてゆきたい。かつて、家々で当たり前に行われてきた自分でつくり、加工・保存し、それを食べつないでいく技や知恵を掘り起こす。今の時代にあった、今だからこそできる新しい生活の知恵を紹介してゆく。そのために、日本人の暮らしを見守ってきた食べ物の神様「宇迦之御魂神」にあやかった新しい雑誌「うかたま」を発刊した。

「うかたま」は次の四つの編集方針を掲げている。

（一）地域の食文化や知恵を掘り起こす

古くからの料理と知恵・技を新しいセンスで紹介し、若い世代が作りたくなるように伝える。

（二）「食」の今をリアルに描く

今の食事がこれでいいのか、読者参加の記事を通して軽いタッチで鋭く切り込む。

（三）農的暮らしのおもしろさを広げる

農家の暮らしに学び、自然を活かす新しいライフスタイルを楽しく提案する。

（四）自分でつくって食べて楽しむ

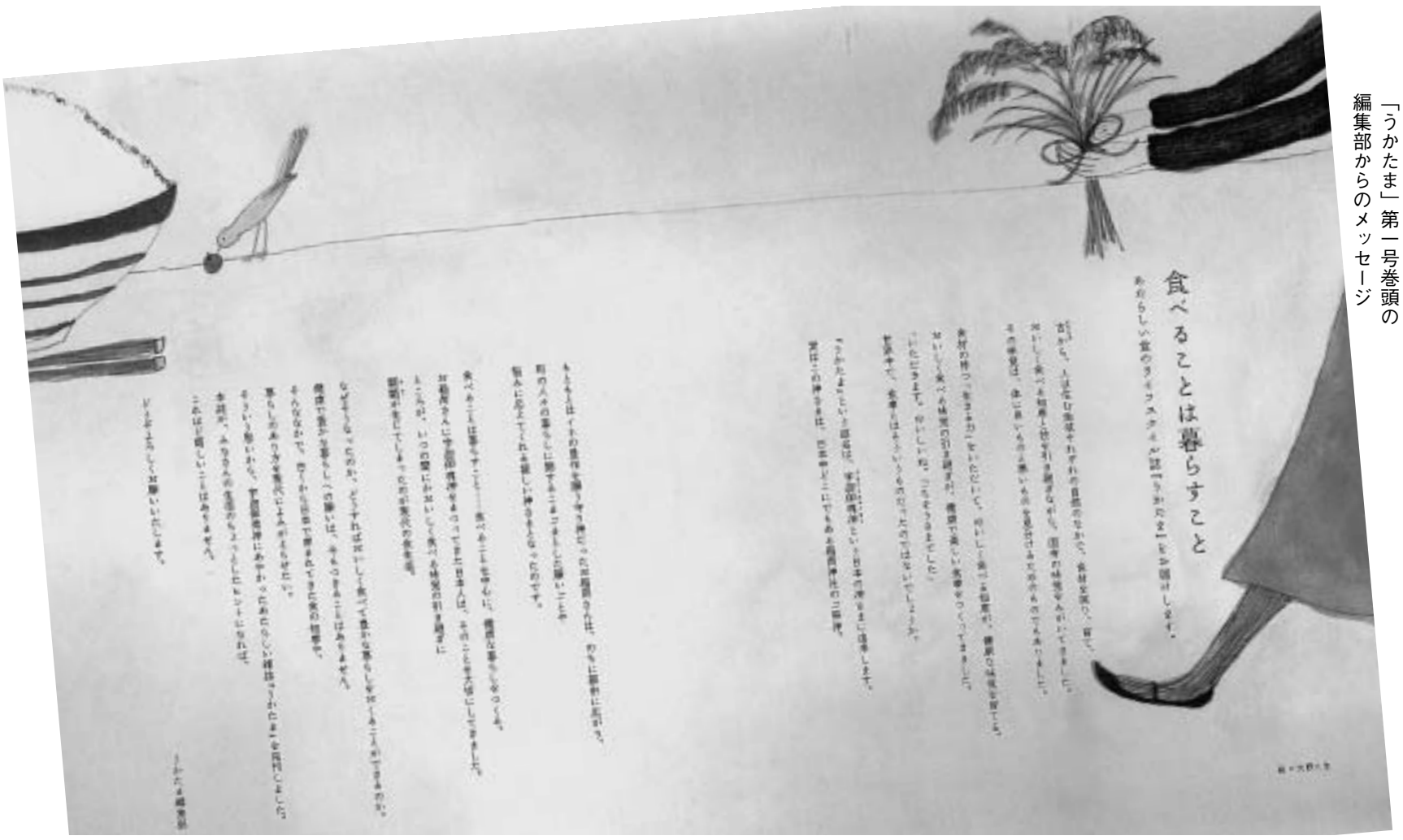
こうつくれば簡単で美味しい！ 編集スタッフが一緒につくり、食べて確認して紹介する。

読者とともに、食の新しいうねりをつくりだしたい

食べることは暮らすこと。うかたまは、これからの「食」のあり方、食の豊かさとは何か考え実践する、読者参加型の雑誌だ。

主な読者対象は、二〇代後半から四〇代前半の女性の方々。この世代が子育て世代でもあり、この世代が変わり、あるいはこの世代に伝わることで、次世代を担う子どもたちにも引き継がれていくからと考えたからだ。残念ながら、この世代に今の六〇～八〇代のおばあちゃんたちの持つ知恵や技が伝わっているとはいえない。その途絶えてしまった食の知恵や技、地域に根ざした食生活を伝える架け橋となる雑誌にしたい。食文化を継承できる（知恵と技を持つ）六〇～八〇代の女性が、今、次世代に伝えておきたい、残しておきたいと思っていることを、編集部が成り代わって読者対象である娘世代、孫世代に向けてビジュアルに軽やかに紹介する。だから、同じ思いを持つ五〇代以降の方も、そして男性も読者になっていただきたい。

多くの読者の方々と一緒になって、食の新たなうねりをつくり出し、伝統と先駆を併せ持つ日本の生活文化を再構築したいと切に願っている。



「うかたま」第一号巻頭の編集部からのメッセージ

農文協

★伝統的食事生活に関する質、量ともに最大の記録集――石毛直道氏

日本の食生活全集

食育の原点 風土に根ざした暮らしの文化

昭和初期、日本の庶民の食生活の原型を、毎日の献立、基本の食材、晴れの日のご馳走まで、お年寄りからの聞き書きで各都道府県別に書き残した貴重な記録。全50巻（都道府県版＋アイヌの食事＋索引2巻）

A5判、上製　●各2900円、揃価145000円

「ここにしかない」郷土食文化
風土、産物、生業の違いから、全都道府県をさらに地域区分して徹底調査。全国350余点、5000人の古老に取材。

身土不二・地産地消 本当の栄養学
田畑、屋敷まわり、里山、川、海などの身近な食材の巧みな活用。同じ場所で四季を生きる旬の食べものと人が出合うとき、それは体が求める真の栄養となる。

本全集の初回配本
聞き書 岩手の食事
作家・富岡多恵子氏が、「ものを食べて」生きる事実に文学的感動をおぼえる、と激賞。

各界からの反響

住井すゑ　「日本の食生活全集」は文化の黄金（きん）脈を掘りあてた…と私は言いたい。人々はそこにはじめて日本の歴史の真の姿を見るだろう。

沢村貞子　二十年あまりのこの研究のあとを私は大切にたどっていこう―健やかに生き、暮しを楽しむために…。

井上ひさし　日本文化、日本人のいのちがかたちを変えた大百科という感じですね。

中島梓　「日本の食生活全集」はなかなか衝撃的なドラマをはらんでいる。

色川大吉　多くの学問分野で、他に類のない価値ある仕事となろう。

CD-ROM版
日本の食生活全集
Windows版　●120000円

全集50巻分の全データを収録。カラー写真12000枚。全国すし比べ、雑煮比べ、各都道府県ごとの食生活研究など、多彩な検索機能で思いどおりに実現。画期的な食文化データベース。

ご注文は　農文協〒107-8668　東京都港区赤坂7-6-1　☎03(3585)1141　FAX.03(3589)1387　URL=http://www.ruralnet.or.jp/　価格は税込